

## 関ヶ原

札幌市医師会  
ファミリー内科

星野 充明

わが家の娘は、V 6 の岡田准一氏のファンである。彼が昨年主演した映画に『関ヶ原』があり、まんまと映画のディスクを買わされてしまった。

関ヶ原の戦いは、定説によると西軍の小早川秀秋の東軍への寝返りをきっかけに東軍勝利で終わった戦いであるが、近年一次史料をもとに新たな説が展開されてきている。それによると、西軍首謀者は石田三成ではなく、大谷吉継や他の奉行衆であり、三成は徳川家康との関係は良好であったものの、大谷に説得されて西軍に加わったというのである。また、そもそも主戦場は関ヶ原ではなく、その少し西側の山中・藤下地区だというのである。小早川軍は西軍の武将が入っていた松尾山へ攻め入りこれを占拠し、最初から東軍として戦闘に参加し、それに向かい合う形で三成が自害峯という丘に陣を張り、戦いが繰り広げられたというのである。また、家康も桃配山にはおらず、赤坂という地に陣を張り、南宮山に入っていた毛利勢と対峙する形でいたというのである。実際の戦いでは、西軍主力は狭い山中地区へコンパクトに布陣し、関ヶ原近くに家康を挑発する形で西軍本隊と離れて大谷隊が布陣していたところへ、福島正則らの豊臣恩顧の大名たちが襲い掛かり、大谷吉継が討ち死にし、圧倒的な形勢で東軍が短時間で勝利を収めたというのである。関ヶ原の戦いは、主戦場が関ヶ原ではなく、将来、学校では慶長（庚子）の乱という呼び名になる可能性もあるかもしれないらしい。

さて、件の映画のディスクであるが、間違っって西軍勝利のストーリーになっていないか期待を持って観てみたが、やはり今回も東軍勝利であった。



## 恵心僧都の導きでしようか

札幌市医師会  
札幌宮の沢病院

笹岡 彰一

延暦寺バスセンターから比叡山を北へ15分、修験の地、横川（よかわ）に着きます。かつて、国宝を収める秘宝館がありました（平成4年にバスセンター近くへ移転）。26年前、大津市での学会の午後に訪れ、奇妙な体験をしました。いささかおぼろげですが、20人くらいが列になって広場を回るように歩いているのを何となく眺めていました。少しすると、先頭の若い男性が私の方に来て一言「笹岡さんですね」。時が凍りました。この列について行こうかと頭をよぎりました。しかし、帰りのバスがそろそろ最終便なので、そそくさと立ち去りました。

昨年、京都での学会を前日に受付して、再訪の機会を得ました。早朝に京都駅から直行バスがありました。早めにバス停に着いたのですが、すでに長い列です。すぐ前に並ぶ男性と隣の観光客との話が聞こえました。「私は宗教とは関係ない者ですけど、縁あって数年前から住職がいなくなったお堂をお守りしています」と。身動きがとれないほど満員になったバスは、京都市内を抜けて狭い山道を約80分、バスセンターに着きました。秘仏開帳の釈迦堂に寄ってから横川へ向かいました。

舞台造りの横川中堂から続く杉木立の先に丁字路があり、右に進むと慰霊碑が並ぶ広場が見えました。さらに歩くと、前回行かなかった恵心堂です。平安後期、恵心僧都が往生要集を執筆した住居とされますが、信長の焼き討ちにより当時のものはありません。男性が庭掃除をしていました。朝のバス停での堂守りさんでした。私を覚えていて、ここには月1回ほどなので良かったですねと、非公開とされている堂内に案内していただきました。狭い室内には金色の阿弥陀如来立像が祀られていました。

恵心僧都は25人の念仏結社に属し、その誰かが病むと往生院<sup>注)</sup>に移して、二人でそれぞれ昼夜なく念仏と看病についたそうです。常に寄り添い、往生の願いを絶やさない。ホスピスの原型ではとも言われます。調べると、秘宝館があったのは丁字路右の広場の奥で、焼失前の恵心堂があった場所と知りました。全てが繋がったような気がしました。終末期医療で悩む私を恵心僧都が導いたのかしらん。いやいや、学会をサボり、煩惱を見透かされたのかも。

注) 往生院：臨終を準備するために建てられた施設で阿弥陀如来を奉安する。